



2020.01.19 新春法会

今後の修練について

塩竈道院・仙台杜都道院の両道院は、新型コロナウイルスの感染拡大により、3月1日より修練を休止しました。その後も感染拡大が続き緊急事態宣言も出されたことから4月13日に当分の間(期限を決めずに)の修練を休止としました。

5月6日までの緊急事態宣言が、1ヶ月程度の延長が報道されました。現状を見る限りあと1ヶ月程度で終息するとは考えにくい状態です。本山の諸行事は10月まで全て中止となっており、県内の行事についても8月いっぱい活動は出来ないと思います。

今後の道院の修練は、早くも9月頃に条件付き(三密を避ける)かマスク着用・手のアルコール消毒等)での再開になるのではと考えております。

所属拳士の皆さんには大変ご迷惑をお掛けしますが、どうぞご理解の上ご協力をお願い致します。

宗昂馬代表コラム

緊急事態宣言が発令され、約一か月が過ぎようとしています。まだまだ終息の兆しは見えません。

私たちの活動も全てが止まってしまった様に見えますが、実は「STAY HOME」と

言われている中でも、インターネットやSNSを活用して新しい活動を模索する指導者・拳士の皆さんが見受けられ、大変嬉しく思います。

一方で、世の中で使われるようになって久しい「アフターコロナ」という言葉には、この現状を直視したくない、どうしたらいいか考えることに疲れた……というような自暴自棄に似た気持ちも込められているような気がして、憂うところがあります。

本当にアフターでいいのでしょうか？

在宅勤務の制限された空間や環境の中でも「できることはないか」と模索する気持ちをもち、いまの社会との上手な向き合い方を見出していくことは大変重要だと思えます。人々の心が行き詰り、



新春法会での餅つき

今後の予定

- ◎ 宮城武専(青葉体育館)については、2020年度の活動は休止となりました。
- ◎ 5月 3日(日) 仙台市大会(青葉体育館)開催中止となりました。
- ◎ 全ての本山の諸行事は、10月まで全て中止です。
- ◎ 宮城県内の行事についても8月いっぱいには中止です。(宮城県大会も中止せざるうえない状況)



2020.01.19 新春法会後の新年会

政府や自治体をはじめ、誰か・何かのせいにしてストレスをごまかしたい…。そういう空気が感じます。

しかし、私たちは今こそ修行で培った他人を思いやる気持ちを実践し、人づくりによる国づくりを謳う少林寺拳法として、何をしてくれるのかを問うのではなく、自分たちに何ができるかを考えてゆきたいと思っています。

与えられるまで待つ時代はもう終わり、私たちは何かを得るために自ら一步を踏み出さなければなりません。どうか皆さん日々、自分にできる事をしっかりと考え行動していきましょう。

その積み重ねによって、終息後にやってく

る未来を明るくものとして受け止められるのだと思います。ともに、コロナに負けない強い心でこの苦しい状況を乗り切つてまいりましょう

2020年 新春法会

1月19日(日)、塩竈道院専有道場を会場に、少林寺拳法塩竈道院と仙台杜道院そして塩釜高校少林寺拳法部の皆さんにも参加いただき、年初めの行事である新春法会と新年会を開催致しました。

この新春法会と新年会は、少林寺拳法拳士の他、道院への協力者や道院近所の皆さんにも参加いただき、賑やかな開催となりました。

新春法会終了後は、参加者全員で「餅つき」を行い、つき上がった餅で「雑煮」、「あんこ餅」、「ごま餅」、「海苔餅」、「納豆餅」等と刺身で新年会に移り、午後3時頃まで楽しい一時を過ごすことが出来ました。参加いただいた皆さんありがとうございました。

中国古典 紹介

「人は流水りゅうすいに鑑かんみるなくして止水しすいに鑑かんみる」を掲載『莊子』

流れる水はいつもざわついているので人の

姿を映すことができない。これに対し、静止した水(止水)はいつも澄みきっているので、あるがままに人の姿を映し出す。人間も、静止した水と同じように、静かな澄みきった心境を形容する「明鏡止水めいきやうしすい」ということばが生まれた。

これはまた「無心の境地」と言ってよいかもしれない。なにごとでも、雑念や欲望が心につまっていたのでは、それに足をすくわれてしまう。既成観念をいっぱいつめ込んでいたのでは、それにとらわれて流動する情勢への対応を誤らないためには、「明鏡止水」の心境になれるかどうかどうかが一つのポイントになる。



2020.01.19 新春法会後の新年会